

令和4年度 佃島小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立佃島小学校

所在地：中央区佃2-3-1

校長名：永木 一郎

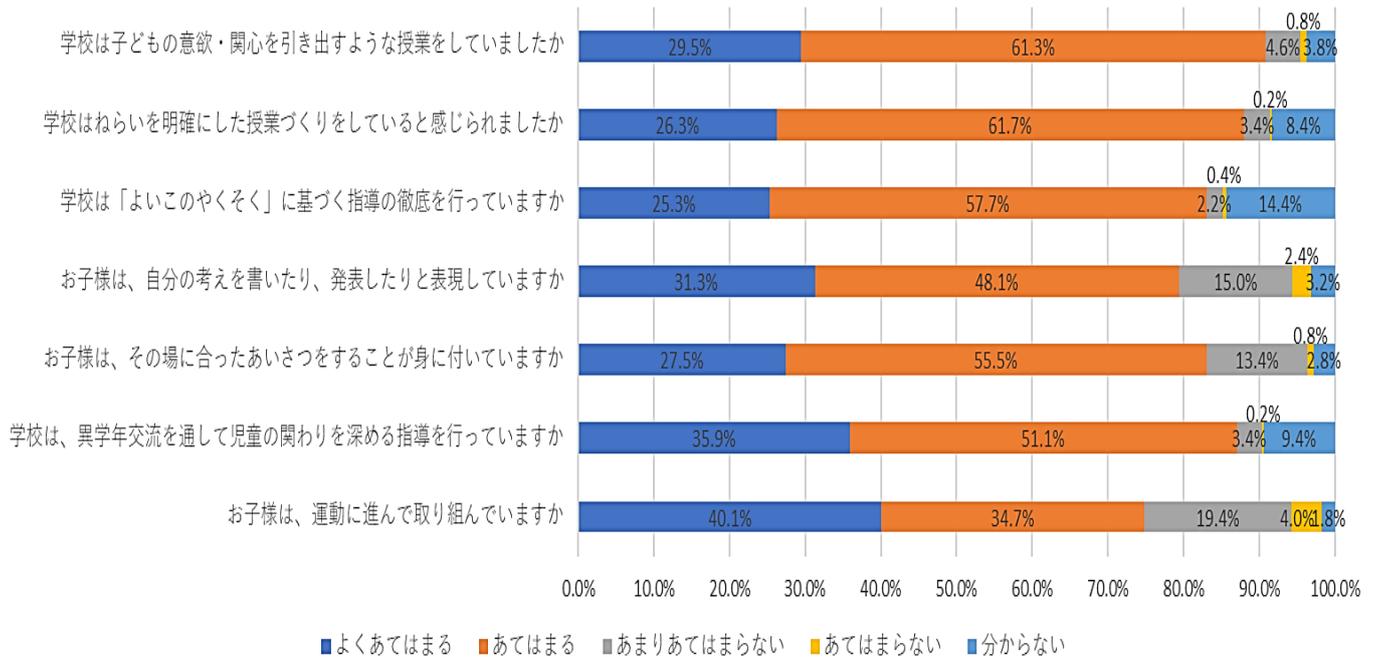
児童数 798人

学級数 25学級

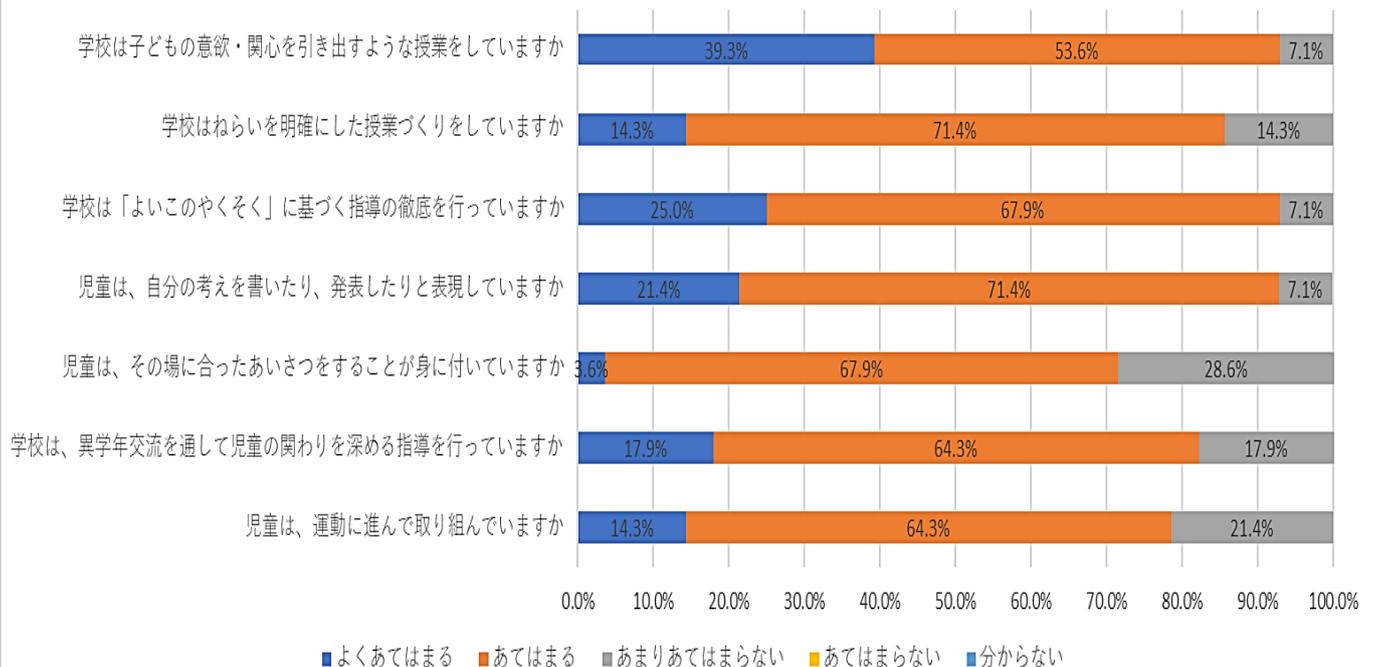
教員数 29人

1 重点目標の達成状況及び取組状況

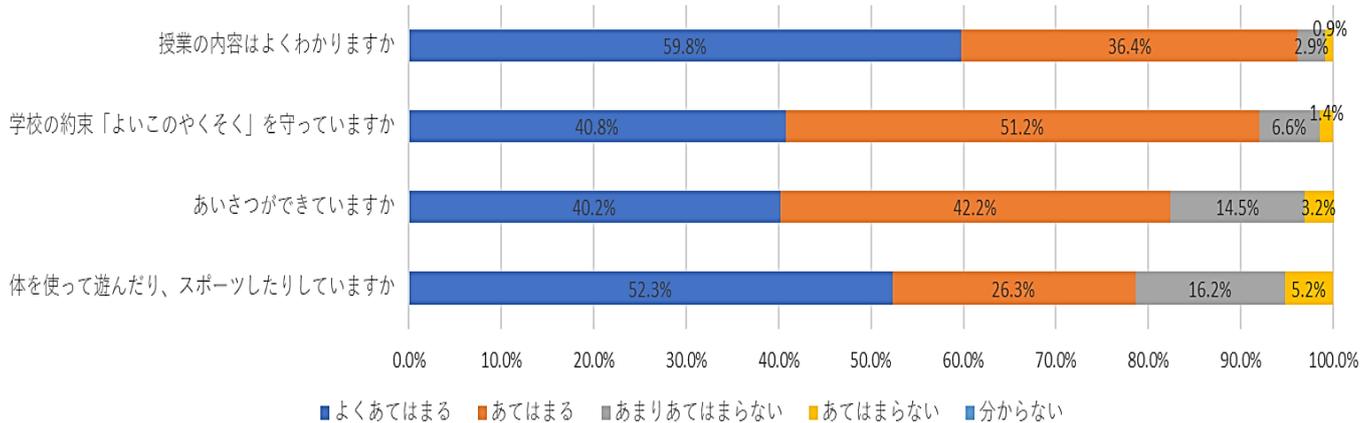
重点目標（保護者）



重点目標（教員）



## 重点目標（児童）



### 重点目標 1

保護者アンケートの「学校は子どもの関心・意欲を引き出すような授業をしていますか」という項目の肯定的な評価は、令和3年度は84%であったが、令和4年度は90.8%になった。また、同じ項目における教員の肯定的な評価は、令和4年度は92.8%であった。このことから、教員の授業における工夫や指導が、児童の関心・意欲を高めることに繋がり、保護者からも教育活動に対する理解につながっていると考えられる。学校公開の回数も昨年度よりも増えたため、児童の学習している様子を見る機会が増えたことも学校評価の結果に表れていると考える。

### 重点目標 2

保護者及び教員アンケートの「お子様（児童）は、自分の考えを書いたり、発表したりと表現していますか」という項目の肯定的な評価は、保護者は79.4%であるのに対して、教員が92.8%であり、差が開いている。タブレットを活用することで、考えを表現する手段が増え、発表する活動の機会は増えていると教員が実感している一方で、保護者は、タブレット内の児童の成果物に触れる機会が少なく、結果としてこのような評価の乖離が生まれたと考える。学校公開で児童の発表の場を取り入れたり、家庭において保護者がタブレット内の児童の成果物を見る機会が増えたりするように、働きかけていく。

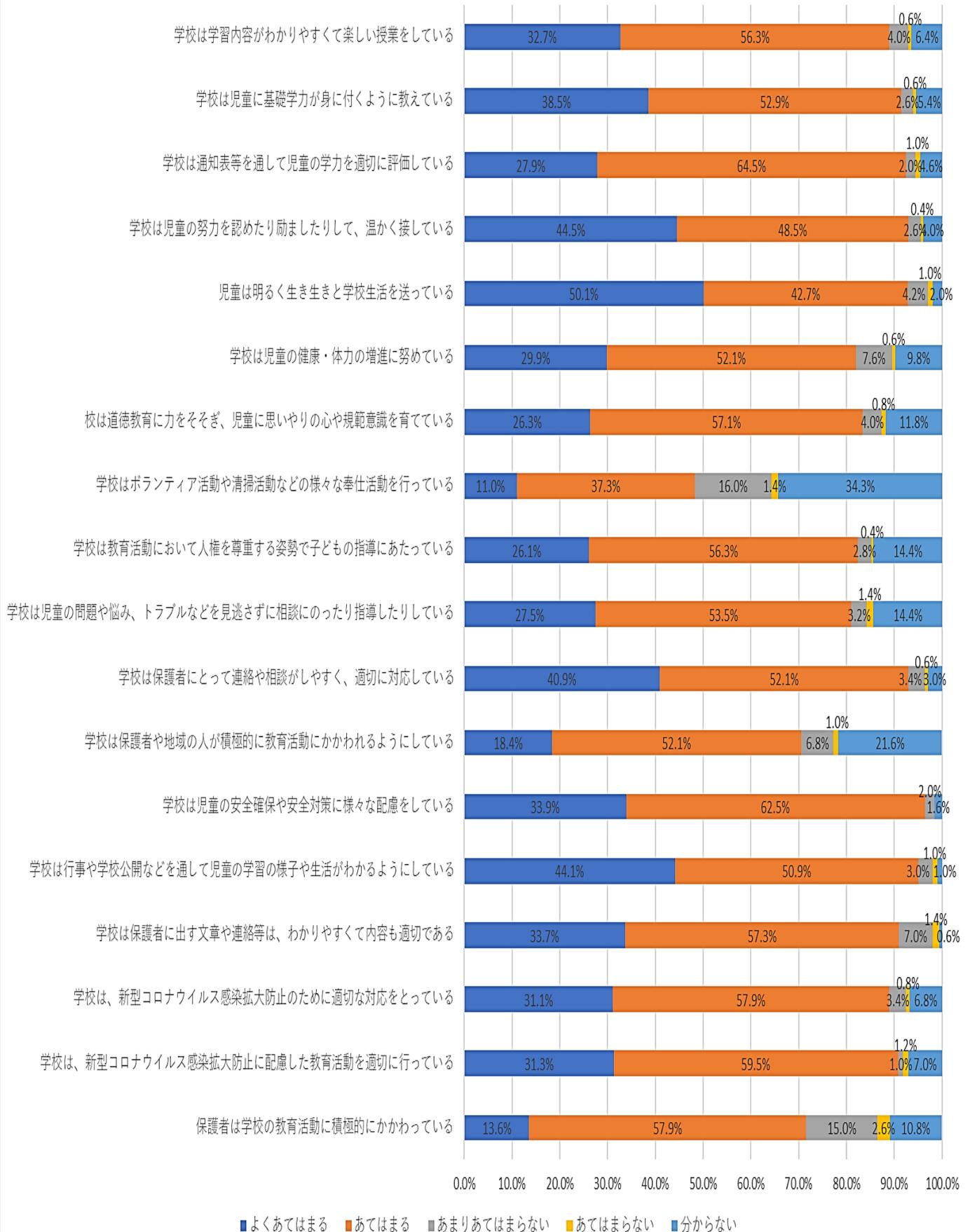
教員アンケートの「学校は『よいこのやくそく』に基づく指導の徹底を行っていますか」という項目の肯定的な評価は、令和3年度は74%であったのに対して、令和4年度は92.9%と大きく増加している。年度当初に『よいこのやくそく』を全教員が再確認し、一貫した指導をすることができたことが大きな要因であると考えられる。保護者アンケートにおいても同様の傾向が見られることから、配布した『よいこのやくそく』の共通理解を図ることができたと考えられることができる。

### 重点目標 3

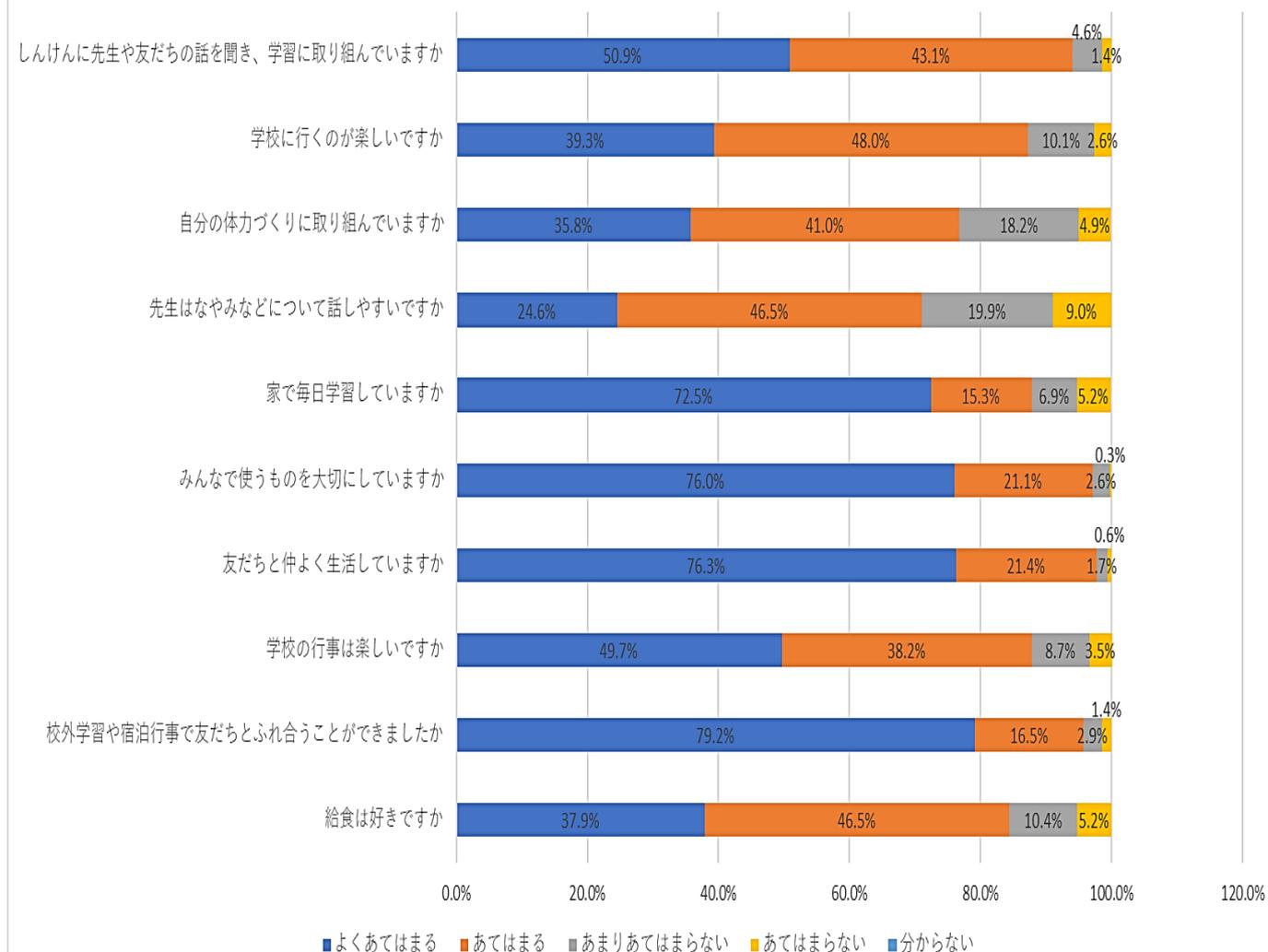
保護者及び児童アンケートの、児童のあいさつに関する項目の肯定的な評価は、令和3年度は保護者79%、児童74%であったが、令和4年度は保護者83%、児童82.4%と評価が上がっている。前年度に引き続き行った、代表委員会を中心とした「あいさつ運動」や、生活指導部を中心として行った「あいさつオリンピック」等の取り組みの成果が表れたのではないかと考える。今後も、児童が、主体的にあいさつができるよう、あいさつへの指導を行っていく。

保護者及び教員アンケートの「学校は、異学年交流を通して児童の関わりを深める指導を行っていますか」という項目の肯定的な評価は、保護者87%、教員82.2%と高くなっている。昨年度は異学年交流が大幅に制限されていたが、今年度は異学年交流の回数が増え、異学年交流の良さを実感することができたのではないかと考える。児童にとって大切な交流であるので、可能な限り継続していきたい。

## 全体の評価（保護者）



## 全体の評価（児童）



## 2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

保護者アンケート全体の評価の「学校は児童に基礎学力が身に付くように教えている」（肯定的評価 91%）、「学校は通知表等を通して児童の学力を適切に評価している」（肯定的評価 92%）、「学校は児童の努力を認めたり励ましたりして、温かく接している」（93%）、児童は明るく生き生きと学校生活を送っている」（93%）、「学校は保護者にとって連絡がしやすく、適切に対応している」（93%）、「学校は児童の安全確保や安全対策に様々な配慮をしている」（96%）、「学校は行事や学校公開などを通して児童の学習の様子や生活が分かるようにしている。」（95%）、「学校は保護者に出す文書や連絡等は、わかりやすく内容も適切である。」（91%）、「学校は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために適切な対応をとっている。」（89%）、「学校は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した教育活動を適切に行っている。」（93%）、「学校は、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した教育活動を適切に行っている。」（91%）と18項目中、9項目が90%を超えた。本年も新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、体育学習発表会や音楽会などの学校行事を実施することができた。また、参観人数を絞りながら学校公開を実施し、児童の様子を伝えることができた。次年度も、体育学習発表会や展覧会などの学校行事の実施を通して、児童の成長に寄与する教育活動を実施していきたい。各種文書などにより、情報を発信していく。

### 3 今後の改善方策

今年度も、学校行事や学校公開などを新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、実施することができた。一方、ボランティア活動や清掃活動などの奉仕活動などへの評価が低かったため、保護者・地域の方にも協力していただきどのような活動ができるのか検討を重ねていく。授業に関する項目において、「ねらいを明確にした授業づくりができているか」に対し、保護者や児童に比べ当てはまると答えた教員は8割台と低く評価している。よって、ねらいを明確にした授業を心がけて日々、行っていく。

「先生はなやみなどについて話しやすいですか」に対して、約3割の児童は話しにくさを感じていることが分かった。悩みを抱えている児童が悩みを相談しやすいよう、ふれあい月間での取り組みを充実させたり、全教員で児童を見守る意識をもち、担任だけでなく色々な先生が話を聞ける時間を設けたり活動を工夫していきたい。